

創作伝説物語

「とね湖のおろち」・下
昭和村ボランティアガイドの会

理事 倉澤 新平

キサンは、側近のアシケとその手下とともに北高山に向かう道中、栗生峠でヤマカガシの化身に、吹き割れの滝で大イワナの化身に、北高山の剣ヶ峰では妖怪カラス天狗に襲われた。さらに、大峰山麓の船着き場では、愛妻のアイカになりすましたモリアオガエルの化身にも襲われたが、エカシから授かった魔除けのお札に助けられ、無事イワカガミの根と裏見の滝の霊水を手に入れて、旅を終えた。

しかし、おろちとの戦いの前夜、生贄となる娘の一家が「娘をおろちに差し出すくらいなら」と、一家自ら命を絶ってしまった。作戦の立て直しを迫られたキサンたちだったが、「赤城国のためなら」とアイカが生贄の囚役をかって出た。戦いの場は、とね湖御室岬。皆は生贄のアイカを見守るように陣を張った。

やがて、異様な稲妻と雷鳴とともにおろちが現れ、囚役のアイカを連れ去ろうとした。しかし、突然アイカがおろちの喉元に小剣を突き付けた。いつの間にか、キサンがアイカの身代わりになり待ち構えていたのだ。だが、

それを見抜いたおろち。手下の者が陣屋に避難したアイカを捕らえていた。「約束の生贄をいただいて行く」と、去ろうとするおろち。その目に向けて、キサンはイワカガミの根の煮汁を塗った矢を放ったが二本とも外れてしまう。アイカを啜え、とね湖へ消え去ろうとするおろちめがけ、今度は煮汁を塗った小剣を目に突き刺した。おろちは苦しみ、啜わっていたアイカを放した。おろちの頭部にいたキサンは、アイカを助けようと飛び降りるや否や大きな鷲になり、湖に落ちたアイカを掴み上げ岸辺の番屋へ運び上げた。

一方、急所の目を刺されたおろちは、のた打ち回りながら綾戸の岩戸に幾度も体当りした。やがて岸壁が崩壊し、とね湖の水はおろちを押し流しながら大海へ流れ出ていった。大鷲となったキサンに救い上げられたアイカであったが、義父の赤城王に抱かれ静かに息を引き取った。

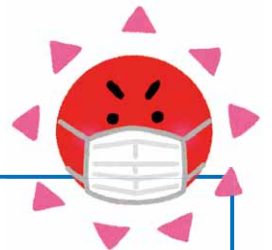
すると、どこからともなく大鷲が舞い降りアイカを掴み上げ、対岸に聳える子持山の頂に連れて行った。やがて地響きとともに子持山が大噴火を起こし、その姿はお腹に子供を宿した母親の寝姿となっていた。水の退いたとね湖の跡は、平和で実り豊かなな里になっていった。(完)



地域包括支援センターだより

熱中症予防×コロナ感染防止で今年の夏も健康に！

注意！ マスク着用により、熱中症のリスクが高まります



従来からの熱中症予防

- 暑さを避けましょう
 - ・涼しい服装、日傘や帽子を使用
 - ・体調に異変を感じたら、涼しい場所に移動する
- こまめに水分補給をしましょう
 - ・のどが渇く前に、こまめに水分補給をしましょう
 - ・大量に汗をかいたときは 塩分も補給しましょう
- 暑さに備えた体づくりをしましょう
 - ・適度な運動を心がけ、身体が暑さに慣れるようにしましょう
 - (無理のない範囲で実施してください)

加えて



コロナ禍における熱中症予防

- 屋外で人と十分な距離(2メートル以上)を確保できる場合は、マスクを外すなどの対応をしましょう
- マスク着用時は、強い負荷の作業や運動は避けましょう
- 冷房使用時でも換気をしましょう
- 日頃の健康チェックをしましょう
 - ・体調が優れないときは、無理せず療養しましょう
- 3密を避け、周囲の人に熱中症予防の目配り、声かけをするようにしましょう

熱中症患者のおよそ半数は高齢者(65歳以上)です